

科目名	理論看護学 I		英訳科目名	Philosophy and Theory of Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230001	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	専攻共通科目：必修		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,DP5を修得するために特に重要な科目。DP3,DP4を修得するために重要な科目。					
授業教員	藤田・畦地・池添,藤田・畦地・池添,藤田・畦地・池添					
授業の概要	看護科学、看護研究における理論・概念開発の意義、哲学的な流れと開発、理論の基本的な成り立ちや理論の構造について学修し、自らの関心看護学領域の理論・概念の開発に向けて探究する。 看護学の哲学的基盤を発展させるために、看護理論や概念を批判的吟味する能力、自らの研究領域で活用できる理論分析や概念分析を行う能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 看護学の哲学的基盤について述べることができる。 2. 看護理論の成り立ちや構造について説明することができる。 3. 理論分析、概念分析の方法について理解し、分析することができる。 4. 概念分析の方法を用いて、関心のある概念を分析することができる。					
授業計画	<p>第1～2回:Introduction 科学論、科学哲学論の探究 I 理論発展の基礎 科学史、科学哲学の歴史的概観 (藤田・畦地・池添)</p> <p>第3～4回:科学論、科学哲学論の探究 II 科学論の展開 関心のある学派及び哲学者の探究① (藤田・畦地・池添)</p> <p>第5～6回:看護学に関連する学派の探究 I 看護学の哲学的基盤発展への方向性 看護学に影響を及ぼした関心のある学派および哲学者の探究② 日本における哲学の歴史 (藤田・畦地・池添)</p> <p>第7～8回:看護学に関連する学派の探究 II 看護学とは 看護哲学とは 看護における科学とは 看護における科学的方法とは 看護学の発展と今後の展望、発展のための方略 (藤田・畦地・池添)</p> <p>第9回～10回:看護科学者としての理論・概念開発の必要性 I 哲学と看護理論 看護理論の探究 看護理論の発展と他の学問領域 (藤田・畦地・池添)</p> <p>第11回～12回:看護科学者としての理論・概念開発の必要性 II 看護理論構築 看護理論の分析、既存の看護理論や概念の批判的吟味(藤田・畦地・池添)</p> <p>第13回～14回:概念分析 理論分析 I 専門領域における理論・概念開発に関する課題 概念開発と概念分析(藤田・畦地・池添)</p> <p>第15回～16回:概念分析 理論分析 II 自らの関心領域の概念分析 (藤田・畦地・池添)</p>					
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3、目標4について、クラスへの貢献度(30%)、プレゼンテーションの資料・内容(70%)を基に、総合的に評価する。					
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・Beth L.Rodgers & Kathleen A. Knarl: Concept Development in Nursing, Second edition, 2000. ・Denise F.Polit & Cheryl Tatano Beck: Nursing Research, 8th edition, 2008. ・ベギー・L・チン, メオナー・K・クレイマー 著: Knowledge Development in Nursing Theory and Process Tenth Edition, ELSEVIER, 2018. ・サンドラ・P・トーマス, ハワード・R・ポリオ 著, 川原由佳里監訳: 患者の声を聞く現象学的アプローチによる看護の研究と実践, エンゼビア・ジャパン, 2006. ・Lorraine Olszewski Walker & Kay Coalson Avant 著, 中木高夫, 川崎修一訳: 看護における理論構築の方法, 医学書院, 2008. 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	各回の事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業((90分×2コマ)=180分)					

科目名	看護学研究方法 I		英訳科目名	Research Methodology in Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230003	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点	*事前に指定した文献・資料を予習したうえで、授業に参加してください。		資格・区分等	研究コース必修科目		
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP5,6 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	特定の分野の看護学の研究の動向、教育の動向を概観し、看護学をさらに発展させていくために必要な研究課題、教育課題について学び、学生自らの研究課題を採求する。また、講義やプレゼンテーションを通して、教育・実践・研究の連関へ学究的に参与する研究能力、教育能力を育成する。					
達成目標 (達成水準)	特定の分野の看護学の研究の動向を概観し、その課題を分析する。 特定の看護学領域の教育の動向を概観し、その課題を分析する。 研究テーマを設定し、研究計画書を作成する。					
授業計画	第1回:コースオリエンテーション 第2回:我が国の看護研究の動向 第3回:諸外国の看護研究の動向 第4回:看護研究の課題 第5回:看護学教育の動向と課題 (1) 看護基礎教育 第6回:看護学教育の動向と課題 (2) 大学院教育 第7回:看護学教育の動向と課題 (3) 臨床における教育 第8回:看護学領域における研究倫理の現状と課題 第9回:研究テーマに関する研究の動向 (1) 我が国における研究の動向 第10回:研究テーマに関する研究の動向 (2) 諸外国における研究の動向 第11回:研究テーマに関する研究の動向 (3) 研究テーマの抽出 第12回:研究計画書の作成 (1)、研究の背景、研究の意義 第13回:研究計画書の作成 (2) 研究テーマに関する文献検討、研究の枠組みの作成 第14回:研究計画書の作成 (3) 研究方法論の明確化 第15回:まとめ					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度(25%)、プレゼンテーション(25%)、課題レポート (50%) によって総合的に評価する。					
教科書	講義の中で、資料の配布および重要な文献の紹介を適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	別途、資料を配布し、説明します。					
オフィスアワー	随時、対応しますが、事前にアポイントメントをとって下さい。					
備考	*履修に当たっては、シラバスに記載されている科目責任者の教員と協議し、担当教員を決定し、履修登録したうえで研究指導を受ける					

科目名	看護学研究方法Ⅱ		英訳科目名	Research Methodology in Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230004	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155047	山田 寛	所属	看護学研究科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4を修得するために特に重要な科目。DP2を修得するために重要な科目。					
授業教員	山田 寛					
授業の概要	看護学の基盤を発展させるために、看護現象を探究する研究方法について量的な観点から検討・吟味し、独自の研究方法を開発する。記述統計と推測統計において基礎統計量の読み方から多変量解析まで、量的データを用いた看護研究論文のクリティクを通して、目的に対応した尺度の選択と開発、および統計解析手法の利用方法を修得する。					
達成目標 (達成水準)	自ら立てた研究目的に対応するデータを集め、採取されたデータの特性を基礎統計から見極め、目的に対応した種々の統計手法を選択し、それらを用いてデータの本質を探ることができる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:統計とは、尺度、計量値と計数値、平均とバラツキ(山田 寛) 2:母集団と標本、母数と統計量、確率とヒストグラム、分布(計量分布、計数分布、統計量分布)(山田 寛) 3:相関分析、これまでの復習と演習1(尺度、数値の性質、バラツキ、相関、等)(山田 寛) 4:検定とは、F検定、演習2(F検定)(山田 寛) 5:検定、平均値の差の検定、ウェルチの検定、対応のあるデータの平均値の差の検定(山田 寛) 6:これまでの復習と演習3(平均値に関する検定)(山田 寛) 7:適合度の検定、分布の適合度の検定、分割表、χ^2二乗検定(山田 寛) 8:演習4(適合度の検定、分割表)(山田 寛) 9:分散分析法(1元配置、2元配置、3元配置、データの繰り返し採取、ブリーキング)(山田 寛) 10:多変量解析1(回帰分析、重回帰分析)(山田 寛) 11:演習5(分散分析法、回帰分析、重回帰分析)(山田 寛) 12:多変量解析2(因子分析)(山田 寛) 13:多変量解析3(共分散構造分析)(山田 寛) 14:論文検討1(山田 寛) 15:論文検討2(山田 寛) 					
成績評価 (基準と方法)	最終レポート(100%)で評価する。					
教科書	<ol style="list-style-type: none"> 1.看護学生・看護職が知りたい統計学 問題解決への道しるべ 東京図書 山田寛、井上正隆 著、ISBN978-4-489-02267-8 2.医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編、東京図書 山田 寛 著、ISBN4-489-00632-2 3.医療・看護のためのやさしい統計学 解析編、東京図書 山田 寛 著、ISBN4-489-00633-0 4.新編 日科技連数値表、日科技連出版社 森口 繁一編、ISBN4-8171-0262-4 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1:平均とバラツキの意味を考える 2:母集団と標本からのデータ抽出の意味と、データ収集計画の関係を考察する 3:相関および相関分析の意義を考察する 4:仮説検定の概念を考察する 5:データ群を比較することの意義を考察する 6:データ群を比較する場合の仮説検定における分析計画を検討する 7:計量値と計数値の差異を確認するとともに、適合度検定と仮説との関係を考察する 8:分割表のメリットとデメリットを考察する 9:避けることの出来ないバラツキと出来るバラツキの差異を考察する 10:目的変数と説明変数の関係を整理する 11:各分析手法の関係を考察する 12:各変数と因子の関係を考察する 13:重回帰分析と因子分析、および共分散構造解析の関係を考察する 14:目的と取り扱っているデータの関係、および目的を達成するための統計手法を考察する 15:目的と取り扱っているデータの関係、および目的を達成するための統計手法を考察する 					
オフィスアワー	授業終了後、研究室にて待機しています。					
備考						

科目名	看護倫理学		英訳科目名	Nursing Ethics		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230005	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	専攻共通科目:選択		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3を修得するために特に重要な科目。DP1,DP2を修得するために重要な科目。					
授業教員	藤田・瓜生					
授業の概要	科学の発達と倫理について概観し、看護科学者としての倫理的基盤を養い、看護研究にかかわる様々な倫理的課題を明確にし、その対応方法を開発する。 看護学の発展に向けて、自らの研究領域の研究にかかわる倫理的課題を認識・分析し、解決に向けて対応できる能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 倫理的判断基準や倫理的判断の基盤となる知識を説明することができる。 2. 看護研究に関わる倫理的課題の様々な解決方法を身につけることができる。 3. 博士論文の研究協力者に対する倫理的課題解決の方法を実施することができる。					
授業計画	<p>第1回:Introduction 看護科学者としての倫理的視点の必要性 学生のこれまでに研究に関する倫理的課題 学生の専門領域における研究倫理に関する課題(藤田・瓜生)</p> <p>第2回:研究倫理の基礎 倫理の歴史の変遷 科学の発達と倫理 研究者の倫理 研究倫理に関する指針(藤田・瓜生)</p> <p>第3~4回:倫理学の基礎 規範倫理:倫理原則・概念 医療・福祉分野に関わる倫理 生命倫理・医療倫理・臨床倫理・職業倫理(藤田・瓜生)</p> <p>第5~6回:応用倫理 先端科学技術と倫理 生命倫理、環境倫理、情報倫理など 人権と倫理(裁判事例等の検討)、法と倫理 (藤田・瓜生)</p> <p>第7~8回:看護倫理 看護倫理の基礎 医学・看護学における倫理の歴史 看護職の倫理的責任 看護実践・看護教育に関わる倫理的課題 (藤田・瓜生)</p> <p>第9~10回:看護研究に関わる倫理的課題I 研究デザインと倫理的課題 研究のプロセスと倫理的課題 研究者のジレンマと対応の検討(藤田・瓜生)</p> <p>第11~12回:看護研究に関わる倫理的課題II 研究倫理審査体制 研究倫理審査委員会 対象者および多職種・他職種との協働における倫理課題と調整方法の検討 自分の専門領域の倫理的課題と解決方法の考案(藤田・瓜生)</p> <p>第13~14回:研究発表に関わる倫理的課題 研究データの取り扱い、所有権、IT化に伴う情報管理、Authorship・ミスコンダクトと責任所在、同僚評価など(藤田・瓜生)</p> <p>第15~16回:医療倫理教育 教育・研究機関における倫理教育 臨床・実践機関における倫理教育(藤田・瓜生)</p>					
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について、クラスへの貢献度(30%)、プレゼンテーションの資料・内容(70%)で総合的に評価する。					
教科書	<p>適宜、参考文献、参考資料を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Denise F.Polit&Cheryl Tatano Beck:Nursing Research, 8th edition, chapter7 Generating Research Evidence Ethically, 2008. ・Nicholas H.Steneck 著,山崎茂明訳:ORI 研究倫理入門-責任ある科学者になるために,丸善,2005. ・中山健夫編集:臨床研究と疫学研究のための国際ルール集,ライフサイエンス出版,2008 ・日本学術会議,声明 科学者の行動規範-改訂版- 2013.1.25. ・日本看護科学学会「看護研究上のモラルに関する提言」 ・日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会:科学の健全な発展のために-誠実な科学者の心得-2014 					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回の事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。 :自らの研究領域の中から、研究に関する倫理的課題をみつけ、社会的あるいは方法的現状を分析し、ディスカッションを通して解決策を検討する。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業(90分×2コマ=180分) 藤代知美先生がクラスに参加します。					

科目名	医学研究方法論		英訳科目名	Methodology in Medical Research		
科目区分			単位数	1	必選区分	
時間割コード	63230008	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点	特になし。 履修予定があれば事前に主指導教員及び講義担当者 (池田光徳)に相談のこと。		資格・区分等	本学看護学研究科博士後期課程の履修者に限る。生 命科学実験方法を選択して研究を進める学生が対 象。		
担当教員	2155310	池田 光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP4 を修得するために特に重要な科目。DP2,6 を修得するために重要な科目。					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	おもに量的な研究手法をとる医学研究の方法を紹介する。講義では、生化学的、細胞生物学的、分子生物学的および生理学的研究法を解説する。本科目を修得することで、学生の研究に医学的な視点を入れることができたり、学際的な研究を進めることができるようになる。併せて英文の医学論文を批判的に読む能力を修得する。看護学教育および医学研究方法論領域の教育の動向と課題を分析・考察し、医学研究方法論をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	1. 臆することなく実験医学領域の英語文献が読める。 2. 生命科学領域の研究方法の意味を理解し、研究結果を批判的に解釈できる。 3. 看護学教育、医学研究方法論領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 医学研究方法論領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。					
授業計画	1:分子生物学の基礎(池田光徳) 2:生命科学系論文の構成(池田光徳) 3:細胞分離法および細胞培養法(池田光徳) 4:RNA 研究法(池田光徳) 5:プラスミドの調整および培養細胞への遺伝子導入 (池田光徳) 6:DNA 塩基配列決定法(池田光徳) 7:ウェスタンブロット法(池田光徳) 8:フローサイトメトリー (池田光徳) 9:ELISA 法および蛍光抗体法(池田光徳) 10:免疫組織化学 (池田光徳) 11:医学研究方法論における教育の動向と課題の多角的分析・考察① (池田光徳) 12:医学研究方法論における教育の動向と課題の多角的分析・考察②(池田光徳) 13:関心領域の看護教育内容・方法の検討①(池田光徳) 14:関心領域の看護教育内容・方法の検討②(池田光徳) 15:関心領域の看護教育内容・方法の開発(池田光徳)					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する (100%)。					
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1.講義開始日に貸与する参考図書の当該部分を学習する。 2.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 3.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 4.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 5.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 6.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 7.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 8.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 9.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 10.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 11.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 12.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 13.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 14.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。 15.講義開始日に貸与する参考図書 of 当該部分を学習する。					
オフィスアワー	C104 へいつでも来室は可能。					
備考						

科目名	インディペンデントスタディ			英訳科目名	Independent Study		
科目区分				単位数	1	必選区分	
時間割コード	63230009	授業種別		履修年次		開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP3,6 を修得するために重要な科目						
授業教員							
授業の概要	学生が、自らの関心領域の看護現象に関して、文献検討、フィールドワーク等の方法を用いて情報を収集、分析することを通して、その領域について理解を深めるとともに、看護学の課題を見出すことを目的とする。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 取りあげた自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究することができる。 (文献検索、文献クリティークなど) 2. 取りあげた自己の関心領域における看護の現状と課題について、さまざまな方法を用いて情報収集を行い、それらを分析し統合することができる。 3. 自己の関心領域における看護の現状と課題を整理し、その中から看護学の課題を見出すことができる。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1回:教員と相談しながら、学生の関心領域を明らかにし、科目の展開方法を計画する 2回:取りあげた領域に関する情報収集 文献検討により、課題を明確にする 3回:課題に関する情報収集と分析のための方法論を検討し、今後の進め方についての計画を立案する 4回:計画に基づき、課題に関する情報収集を行う 5回:収集した情報の一次分析を行い、さらに情報収集が必要な内容を明らかにする 6回:課題に関連する文献等と比較検討しながら、収集した情報を分析する 7回:収集した情報について、分析を深め、まとめる 8回:まとめ 他の学生と共有し、ディスカッションする 事後の課題として、まとめのレポートを提出する <p>:* 探究する課題の設定、そのための方法論の検討について、教員と適宜ディスカッションしながら進めていく。 :* 4～7回の展開方法については、フィールドワークや課題に関連する専門職等へのインタビューなど、学生が自ら計画を立て、実施する。</p>						
成績評価 (基準と方法)	全過程における課題への取り組み (30%)、プレゼンテーション (40%)、レポートの内容 (30%) に基づき、総合的に評価する。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は、適宜行う						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:事前学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する :事後の課題として、まとめのレポートを提出する						
オフィスアワー	随時。できるだけ事前にメールでアポイントメントを取ってください。						
備考							

科目名	プロフェッショナルライティング		英訳科目名	Professional Writing		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230010	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP4 を修得するために特に重要な科目。DP2,5 を修得するために重要な科目					
授業教員						
授業の概要	国際学術雑誌にアクセプトされる論文は、単に英語の正確さだけでなく、データの質、論理性、倫理に関して基準を満たしている必要がある。このコースでは、受講生が手元にあるデータをもとに実際に英語論文を作成してみるにより、科学的な看護研究手法について学びを深める。前半の講義は日本語を用いて行い、受講者の確実な理解を促す。後半はゼミナール形式で行い、受講者が自ら収集したデータをもとに英語論文を完成させていく。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1) データから導き出すことのできる結論を (和文または英文で) 明確に記述することができる。 2) 結論の根拠となるデータを (和文または英文で) 明確に記述することができる。 3) 現在手元にあるデータをもとに、投稿可能な英語論文の構成を考えることができる。 4) 現在計画中または実施中の博士論文研究を見直し、将来英語論文として発表するために必要な要素を具体的に指摘することができる。 					
授業計画	第1回:オリエンテーション 第2回:英語論文のいろいろ、投稿基準、倫理規定について 第3回:データから結論を導き出す。 第4回:結論の根拠を明確に記述する。 第5回:論文種類の選択 第6回:投稿規定に合わせた編集 第7回:プレゼンテーションおよびディスカッション 第8回:プレゼンテーションおよびディスカッション					
成績評価 (基準と方法)	授業への参加・貢献度 (30%)、プレゼンテーションの内容 (40%)、課題ペーパー (30%) を基に、総合的に評価する。					
教科書	必要に応じて提示する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	第1回～第8回:その都度提示する。					
オフィスアワー	Walk-in 日時は適宜連絡する。メールでの事前予約を推奨。					
備考	実務経験のある教員による授業科目					

科目名	共創看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Co-creation Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230011	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	基礎看護学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、基礎看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、療養者や家族、在宅ケアシステムを対象とした研究方法を学修し、研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見いだすことができる。 2. 研究課題として見いだした看護現象に適した理論、概念の文献的考察ができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を選択することができる。 					
授業計画	<p>第1回:基礎看護学における我が国の研究の動向に関する文献の多角的分析 第2回:基礎看護学における海外の研究の動向に関する文献の多角的分析 第3回:基礎看護学における我が国の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析 第4回:基礎看護学における海外の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析 第5回:研究課題に関連した我が国の研究成果の検討 第6回:研究課題に関連した海外の研究成果の検討 第7回:研究課題の中心概念の文献的考察1：我が国における研究の概観 第8回:研究課題の中心概念の文献的考察2：我が国における研究成果の検討に基づく概念分析 第9回:研究課題の中心概念の文献的考察3：海外における研究の概観 第10回:研究課題の中心概念の文献的考察4：海外における研究成果の検討に基づく概念分析 第11回:研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察1：他の学問領域における研究課題に関する研究の概観 第12回:研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察2：他の学問領域の文献検討をふまえた本研究課題の位置づけの検討 第13回:研究課題の明確化と研究方法論の理論的基盤の検討 第14回:研究方法論の理論的基盤の決定 第15回:研究計画全体の検討</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度、貢献度、プレゼンテーション (30%)、提出物の内容 (70%) から評価する					
教科書	適宜資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する					
オフィスアワー	適宜					
備考						

科目名	共創看護学Ⅱ		英訳科目名	Theories and Research on Co-creation Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230012	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2159089	畦地 博子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	看護学領域における理論やエビデンス活用の動向を分析し、現在の課題を明らかにする。また、さまざまな看護実践において活用できる理論やエビデンスの構築を行う能力を修得する。理論・倫理・技術・研究などの看護学教育の動向と課題を分析・考察し、看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学領域における看護理論やエビデンスの活用について多角的に分析・考察することができる。 2. 新たな理論やエビデンスを構築していく方法について説明することができる。 3. 理論・倫理・技術・研究などの看護学教育の動向と課題を多角的に分析・考察することができる。 4. 理論・倫理・技術・研究などの看護学領域の教育の質を向上させる方策を提案することができる。 					
授業計画	<p>第1回:関心領域の看護理論の動向に関する分析 第2回:関心領域のエビデンスの動向に関する分析 第3回:看護学領域における理論の多角的分析と考察1:国内外における理論の発展過程 第4回:看護学領域における理論の多角的分析と考察2:国内外における理論の実践・研究への活用と有用性・限界 第5回:看護学領域における中範囲理論の多角的分析と考察1:国内外における中範囲理論の発展過程 第6回:看護学領域における中範囲理論の多角的分析と考察2:国内外における中範囲理論の実践・研究への活用と有用性・限界 第7回:看護学領域における状況特定理論の多角的分析と考察1:国内外における状況特定理論の発展過程 第8回:看護学領域における状況特定理論の多角的分析と考察2:国内外における状況特定理論の実践・研究への活用と有用性・限界 第9回:看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索1:海外の研究の動向の分析 第10回:看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索2:我が国の研究の動向の分析 第11回:理論・倫理・技術・研究など看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析と考察1 第12回:理論・倫理・技術・研究など看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析と考察2 第13回:関心領域の看護教育内容・方法の検討1 第14回:関心領域の看護教育内容・方法の検討2 第15回:関心領域の看護教育内容・方法の開発</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度、貢献度、プレゼンテーション (30%)、提出物の内容 (70%) から評価する					
教科書	適宜資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する					
オフィスアワー	適宜					
備考						

科目名	がん看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Cancer Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230013	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	専攻専門科目:選択		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,DP5 を修得するために重要な科目。					
授業教員	藤田					
授業の概要	がん看護学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、がん看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、がん患者やその家族を対象とした研究方法を学修し、研究方法の特徴と限界を考察して新たな研究方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. がん看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護現象に適した理論、概念の文献的考察をすることができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を検討することができる。					
授業計画	第1～2回:がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(1)(藤田) 第3～4回:がん看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(2)(藤田) 第5～6回:研究課題に関連した国内外の研究成果の検討(藤田) 第7～8回:研究課題の中心概念の文献的考察(1)(藤田) 第9～10回:研究課題の中心概念の文献的考察(2)(藤田) 第11～12回:研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討(藤田) 第13～14回:研究方法論の理論的基盤の検討(藤田) 第15回:研究計画全体の検討(藤田)					
成績評価 (基準と方法)	目標1、目標2、目標3について、クラスへの事前準備(10%)、プレゼンテーションの内容(30%)、研究計画の内容(60%)を総合的に評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業((90分×2コマ=180分))					

科目名	がん看護学Ⅱ		英訳科目名	Theories and Research on Cancer Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230014	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における注意点			資格・区分等	専攻専門科目:選択		
担当教員	2155175	藤田 佐和	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6を修得するために特に重要な科目。DP2,DP4を修得するために重要な科目。					
授業教員	藤田					
授業の概要	がん看護学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。また、がんの軌跡や病期に沿ってがん患者やその家族がより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。さまざまな状況にあるがん患者やその家族を取りあげ、既存の研究成果や理論に基づき、がんの軌跡や病期に沿ってより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。 看護学教育およびがん看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、がん看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標(達成水準)	1. がん看護学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察することができる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案することができる。 3. 看護学教育、がん看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察することができる。 4. がん看護学領域の教育の質向上のための方策を考案することができる。					
授業計画	第1～2回:がん看護学の関心領域の実践・研究の動向(藤田) 第3～4回:がん看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察(藤田) 第5～6回:がん看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築(藤田) 第7～8回:関心領域の看護介入方法の検討(藤田) 第9～10回:関心領域の看護介入方法の開発(藤田) 第11～12回:がん看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察(藤田) 第13～14回:関心領域の看護教育内容・方法の検討(藤田) 第15回:関心領域の看護教育内容・方法の開発(藤田)					
成績評価(基準と方法)	目標1,目標2,目標3について、プレゼンテーションの内容(20%)、および学修課題(80%)を総合的に評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習課題(予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業(90分×2コマ=180分)					

科目名	小児看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Child Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230017	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員	中野					
授業の概要	小児看護学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、小児看護学領域での理論開発の可能性を考察する。さらに、子どもやその家族を対象とした研究方法について学修する。様々な研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 小児看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出す。 2. 研究課題として見出した看護現象に適した理論、概念の文献的考察ができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論の検討ができる。					
授業計画	第1～2回:小児看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(1)(中野) 第3～4回:小児看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(2)(中野) 第5～6回:研究課題に関連した国内外の研究成果の検討(中野) 第7～8回:研究課題の中心概念の文献的考察(1)(中野) 第9～10回:研究課題の中心概念の文献的考察(2)(中野) 第11～12回:研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討(中野) 第13～14回:研究方法論の理論的基盤の検討(中野) 第15回:研究計画全体の検討(中野)					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーションの内容(20%)、研究計画の内容(70%)により評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業(90分×2コマ=180分)					

科目名	小児看護学Ⅱ		英訳科目名	Theories and Research on Child Health Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230018	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155072	中野 綾美	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。					
授業教員	中野					
授業の概要	小児看護学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、小児看護学領域における新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。子どもの健康レベルや発達段階に沿って、子どもやその家族がより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。 看護学教育および小児看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、小児看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	1. 小児看護学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察できる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案できる。 3. 看護学教育、小児看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 小児看護学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。					
授業計画	第1～2回:小児看護学の関心領域の実践・研究の動向(中野) 第3～4回:小児看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察(中野) 第5～6回:小児看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築(中野) 第7～8回:関心領域の看護介入方法の検討(中野) 第9～10回:関心領域の看護介入方法の開発(中野) 第11～12回:小児看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察(中野) 第13～14回:関心領域の看護教育内容・方法の検討(中野) 第15回:関心領域の看護教育内容・方法の開発(中野)					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーション(10%)、レポート(80%)により評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考	1つの課題について、180分の授業((90分×2コマ=180分))					

科目名	老人看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Gerontological Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230019	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155187	竹崎 久美子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	老年学と老人看護学における諸理論を学修し、様々な健康レベルにある老年期を生きる人々の「健康」と「生活」と「安寧」を支援する看護学について考究する。特に諸制度の変化をとらえた高齢者の新たなケアシステムを構築し、成果を研究的に蓄積・発展させる研究手法の開発を通して老人看護学の果たしうる社会的役割について可視化し、政策提言できる能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年学で用いられる主要な理論や概念について文献検討を深め、論じることができる。 2. 老人看護学領域において活用されている理論や概念、既存の研究を概観し、老人看護の立場から、探究すべき現象・社会問題、研究課題について、明らかにする。 3. 高齢者とその家族に関する健康課題について、関心を持った理論・概念を用いて論じ、研究的に現状を分析する方法について論じることができる。 					
授業計画	<p>第1回:老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 1: 発達理論と老年期</p> <p>第2回:老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 2: QOL、健康など</p> <p>第3回:老年学において用いられる主要な理論や概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 3: 生きがい、サクセスフル・エイジングなど</p> <p>第4回:老年学における主要な理論や概念に関する現状と課題に対する看護学の果たすべき役割の探求</p> <p>第5回:老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 1: ストレングスモデル、ICF など</p> <p>第6回:老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 2: パーソンセンタードケア、バリデーション、ユマニテュード、など</p> <p>第7回:老人看護学領域において活用される理論、概念に関する、国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 3: 高齢者総合的機能評価、MDS・MDS-HC、など</p> <p>第8回:老人看護学領域において活用される理論や概念に関する現状と今後の発展に向けた課題に関する検討</p> <p>第9回:老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 1: ライフレビュー法・ライフヒストリー法など</p> <p>第10回:老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 2: 高齢者を対象とした様々なスケールについて</p> <p>第11回:老人看護学領域において活用される研究方法とその研究成果の多角的分析と、課題解決のための研究方法の探究 3: 老人看護学領域における介入研究の現状と課題</p> <p>第12回:老人看護学領域における研究の現状を踏まえた、今後の課題と発展させるべき研究テーマの検討</p> <p>第13回:自らが関心ある高齢者の健康課題・現象に関する、既存研究の概観と、その動向に関する探求</p> <p>第14回:自らが関心ある高齢者の健康課題・現象に関する課題の明確化と、研究的取り組みの方略の検討</p> <p>第15回:総括</p>					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)の内容などによって、総合的に評価する					
教科書	適宜、参考資料等を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>:1~3、5~7、9~11回:各自関心のある理論・概念を選定し、その意味する現象や事象について、構成要素について、また過去の研究的蓄積については看護学と他領域における研究成果について、文献で調べてくる。</p> <p>:4、8、12回:各自がレポートした内容を踏まえ、現状と課題について分析してくる。</p> <p>:レポートは事前に、パスワードをかけて教員・受講生全員に配信すること。</p>					
オフィスアワー	講義前後で、適宜学生と時間調整する。					
備考						

科目名	老人看護学Ⅱ			英訳科目名	Theories and Research on Gerontological Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230020	授業種別		履修年次		開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2155187	竹崎 久美子		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	老人看護領域で活用されている理論や、既存の研究成果、実践の動向を分析し、高齢者及び家族の健康問題の解決を導く介入方法の可能性を考察する。さらに、高齢者と家族が老いにより生じる様々な問題や課題に向き合える、新たな看護介入方法を開発するための能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現在国内で高齢者やその家族が解決すべき健康課題について探究し、論ずることができる。 2. 介入の評価や成果を研究的に明らかにする方略について、論ずることができる。 3. 高齢者やその家族の健康課題を解決するための介入と、それを研究的に評価する方略について、具体的に提案することができる。 						
授業計画	<p>1～4回:老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析</p> <p>5～8回:老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析</p> <p>9～10回:老人看護学領域における国内外の動向・課題・展望に関する探求</p> <p>11～14回:自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略に関する探究</p> <p>15:総括</p>						
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度および貢献度(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)の内容などによって、総合的に評価する。						
教科書	適宜、参考資料等を配布する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	<p>1～4回:老人看護学における看護実践について関心のある国内外の研究・教育・実践の文献を検索・検討しまとめる。</p> <p>5～8回:老人看護における実践介入やケア評価に関する国内外の研究・教育・実践の文献を検索・検討しシステムティック・レビューを行う。</p> <p>9～10回:老人看護学領域における国内外の動向・課題・展望に関する文献を検索・検討し、自らの研究課題について探求する。</p> <p>11～14回:自らが関心のある高齢者の健康課題に関する介入とその評価を研究的に蓄積する方略について、異なる方法論を用いてまとめてみる。</p>						
オフィスアワー	原則として、講義日の前日または当日に調整を行い、学生と教員で日程調整を行う。						
備考							

科目名	精神看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Psychiatric Mental Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230021	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	人々が健康的な生活を過ごすためには、精神の健康が重要な要素である。精神看護学領域で活用されている理論や概念を学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、精神看護学領域での理論開発の可能性を考察する。また、精神疾患をもつ人やその家族を対象とした研究方法について学習し、研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1.精神看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出す。 2.研究課題として見出した現象に適した理論、概念の文献的考察ができる。 3.研究課題に即した研究の枠組み、方法論の検討ができる。					
授業計画	1:精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 (1) 2:精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 (2) 3:精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 (3) 4:精神看護学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析 (4) 5:研究課題に関連した国内外の研究成果の検討 (1) 6:研究課題に関連した国内外の研究成果の検討 (2) 7:研究課題の中心概念の文献的考察 (1) 8:研究課題の中心概念の文献的考察 (2) 9:研究課題の中心概念の文献的考察 (3) 10:研究課題の中心概念の文献的考察 (4) 11:研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討 (1) 12:研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討 (2) 13:研究方法論の理論的基盤の検討 (1) 14:研究方法論の理論的基盤の検討 (2) 15:研究計画全体の検討					
成績評価 (基準と方法)	クラスでの討議・プレゼンテーション 30%、提出物 70%					
教科書	適宜資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:プレゼンテーション資料の作成					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考						

科目名	精神看護学 II		英訳科目名	Theories and Research on Psychiatric Mental Health Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230022	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155278	田井 雅子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	精神看護学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。また、さまざまな状況にある精神疾患をもつ人やその家族を取り上げ、既存の研究成果や理論に基づき、精神疾患の病期に沿ってより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。 看護学教育・精神看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、精神看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	1.精神看護学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察できる。 2.既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案できる。 3.看護学教育・精神看護学領域の教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4.精神看護学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。					
授業計画	1:精神看護学の関心領域の実践・研究・研究の動向① 2:精神看護学の関心領域の実践・研究・研究の動向② 3:精神看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察① 4:精神看護学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察② 5:精神看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築① 6:精神看護学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築② 7:関心領域の看護介入方法の検討① 8:関心領域の看護介入方法の検討② 9:関心領域の看護介入方法の開発① 10:関心領域の看護介入方法の開発② 11:精神看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察① 12:精神看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察② 13:関心領域の看護教育内容・方法の検討① 14:関心領域の看護教育内容・方法の検討② 15:関心領域の看護教育内容・方法の開発					
成績評価 (基準と方法)	クラス討議・プレゼンテーションの内容 30%、提出物 70%より総合的に評価する					
教科書	適宜、資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:プレゼンテーション資料の作成					
オフィスアワー	学生と時間調整し適宜対応する					
備考						

科目名	家族看護学 I		英訳科目名	Theories and Research on Family Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230023	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	家族の健康や家族生活に関わる現象を説明している看護学領域の理論を取りあげ、それぞれの理論の特徴や限界を分析する。また、家族へのケアに関する研究方法の特徴や限界を考察する。そのうえで、家族の健康生活を構築するために有用な理論開発の可能性を検討するとともに、家族の健康レベルを高めていく看護方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 家族看護学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出す。 2. 研究課題として見出した家族の健康や看護にかかわる現象を理解する上で有用な理論や概念について、文献的考察ができる。 3. 研究課題に即して研究の枠組み、方法論の検討ができる。					
授業計画	第1回:家族看護学における我が国の研究の動向に関する文献の多角的分析 第2回:家族看護学における海外の研究の動向に関する文献の多角的分析 第3回:家族看護学における我が国の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析 第4回:家族看護学における海外の教育・実践の動向に関する文献の多角的分析 第5回:研究課題に関連した我が国の研究成果の検討 第6回:研究課題に関連した海外の研究成果の検討 第7回:研究課題の中心概念の文献的考察1:我が国における研究の概観 第8回:研究課題の中心概念の文献的考察2:我が国における研究成果の検討に基づく概念分析 第9回:研究課題の中心概念の文献的考察3:海外における研究の概観 第10回:研究課題の中心概念の文献的考察4:海外における研究成果の検討に基づく概念分析 第11回:研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察1:他の学問領域における研究課題に関する研究の概観 第12回:研究課題に関連する他の学問分野、文献を用いた考察2:他の学問領域の文献検討をふまえた本研究課題の位置づけの検討 第13回:研究課題の明確化と研究方法論の理論的基盤の検討 第14回:研究方法論の理論的基盤の決定 第15回:研究計画全体の検討					
成績評価 (基準と方法)	課題への取り組み (40%)、プレゼンテーションの内容 (40%)、ディスカッションへの参加度・貢献度 (20%) などから評価する					
教科書	適宜資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する					
オフィスアワー	随時					
備考						

科目名	家族看護学 II		英訳科目名	Theories and Research on Family Health Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230024	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2155473	長戸 和子	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	家族看護学領域で活用されている理論や既存の研究成果、実践の動向を分析し、家族看護学領域における現在の課題を明らかにする。また、さまざまな家族発達段階にある家族や健康問題をもつ家族に対して、家族の健康生活を構築するための看護介入方法を開発する能力を修得する。 看護学教育および家族看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、家族看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護学領域における看護介入方法に関する研究や看護実践の動向を多角的に分析、考察する。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな家族看護介入方法を考察する。 3. 看護学教育、家族看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 家族看護学領域の教育の質を向上させる方策を考案できる。 					
授業計画	第1回:家族看護学の関心領域の実践の動向に関する分析 第2回:家族看護学の関心領域の研究の動向に関する分析 第3回:家族看護学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察1:海外における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界 第4回:家族看護学領域における諸概念、理論、モデルの多角的分析と考察3:我が国における概念、理論、モデルの発展過程とそれらを実践・研究に活用する上での有用性と限界 第5回:家族看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索1:海外の研究の動向の分析 第6回:家族看護学領域における看護介入方法のエビデンスの検索2:我が国の研究の動向の分析 第7回:関心領域の家族看護介入方法の検討1:関心のある領域を取り上げ、我が国の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する 第8回:関心領域の家族看護介入方法の検討2:関心のある領域を取り上げ、海外の既存の文献等を用いて実践の動向を分析する 第9回:関心領域の家族看護介入方法の開発1 第10回:関心領域の家族看護介入方法の開発2 第11回:家族看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察1:海外の動向 第12回:家族看護学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察2:我が国の動向 第13回:関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の検討1 第14回:関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の検討2 第15回:関心領域の家族看護に関する看護教育内容・方法の開発					
成績評価 (基準と方法)	課題への取り組み (40%)、プレゼンテーション (40%)、ディスカッションへの参加度・貢献度 (20%) などから評価する					
教科書	適宜、参考資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:事前学習課題、事後学習課題は、講義進行に合わせ、講義中に適宜提示する					
オフィスアワー	随時					
備考	長戸 和子(看護学研究科 博士後期課程)・瓜生 浩子(看護学研究科 博士後期課程)					

科目名	学校保健学 I		英訳科目名	Theories and Research on School Health Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230029	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等	専攻専門科目:選択		
担当教員	2155140	池添 志乃	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,DP5 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	学校保健学領域で活用されている理論や概念について学修し、それぞれの理論や概念の特徴や限界を分析する。研究の動向、実践の動向について分析し、学校保健学領域での理論開発の可能性を考察する。また、児童生徒等とその家族を対象とした研究方法を学修する。さらに研究方法の特徴と限界を考察して新たな研究方法を開発する能力を修得する。					
達成目標 (達成水準)	1. 学校保健学領域における国内外の研究・教育・実践の動向を多角的に分析し、研究課題を見出すことができる。 2. 研究課題として見出した看護現象に適した理論、概念の文献的考察をすることができる。 3. 研究課題に即した、研究の枠組み、方法論を検討することができる。					
授業計画	第1～2回:学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(1) 第3～4回:学校保健学の関心領域の国内外の研究・教育・実践の文献の多角的分析(2) 第5～6回:研究課題に関連した国内外の研究成果の検討 第7～8回:研究課題の中心概念の文献的考察(1) 第9～10回:研究課題の中心概念の文献的考察(2) 第11～12回:研究課題を解決するための方策を広範な学問分野・文献などから検討 第13～14回:研究方法論の理論的基盤の検討 第15回:研究計画全体の検討					
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度・貢献度(10%)、プレゼンテーションの内容(20%)、研究計画の内容(70%)により評価する。					
教科書	適宜、資料を配布する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。					
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。					
備考						

科目名	学校保健学 II			英訳科目名	Theories and Research on School Health Nursing II		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230030	授業種別		履修年次		開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等	専攻専門科目:選択		
担当教員	2155140	池添 志乃		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,DP4 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	<p>学校保健学領域で開発されているエビデンスに基づく看護介入方法を分析・考察する。研究の動向、実践の動向について分析し、学校保健学領域における新たな看護介入方法を開発する可能性を考察する。児童生徒等の発達段階や健康レベルに沿って、児童生徒等と家族がより健康に生活していくための新たな看護介入方法を開発する能力を修得する。</p> <p>看護学教育および学校保健学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、学校保健学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。</p>						
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校保健学領域におけるエビデンスに基づく看護介入方法を多角的に分析・考察できる。 2. 既存の研究成果や理論に基づき、新たな看護介入方法を考案できる。 3. 看護学教育、学校保健学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4. 学校保健学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。 						
授業計画	<p>第1～2回:学校保健学の関心領域の実践・研究の動向 第3～4回:学校保健学領域における諸概念・理論・モデルの多角的分析・考察 第5～6回:学校保健学領域における看護介入方法のエビデンス検索・構築 第7～8回:関心領域の看護介入方法の検討 第9～10回:関心領域の看護介入方法の開発 第11～12回:学校保健学領域における教育の動向と課題の多角的分析・考察 第13～14回:関心領域の看護教育内容・方法の検討 第15回:関心領域の看護教育内容・方法の開発</p>						
成績評価 (基準と方法)	クラスへの参加度・貢献度 (10%)、プレゼンテーションの内容 (20%)、および学修課題 (70%) を総合的に評価する。						
教科書	適宜、資料を配布する。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	:各回のテーマについての事前課題を前日までに提出したうえで、授業に出席すること。						
オフィスアワー	随時対応します。メール等で連絡をしてアポイントメントを取ってください。						
備考	1つの課題について、180分の授業 ((90分×2コマ=180分))						

科目名	災害・国際看護学 I			英訳科目名	Theories and Research on Disaster and International Nursing I		
科目区分				単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230031	授業種別		履修年次		開講期間	通年
授業方式				池		永国寺	
履修における 注意点				資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里		所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP3 を修得するために特に重要な科目。DP1,5 を修得するために重要な科目。						
授業教員							
授業の概要	災害に関する研究や実践の動向について学習し、グローバル社会の中にある災害現場で貢献しうる看護の役割を考察する。また、世界の人々や災害に関する研究方法を学習し、研究方法の特徴と限界を考察し、新たな研究方法を開発する能力を修得する。						
達成目標 (達成水準)	1. グローバル社会における健康危機の現状を説明できる。 2. 災害がもたらす健康被害・看護ニーズを要因・素因・サイクルなどに沿って整理できる。 3. 災害に関わる健康課題について、適切な実践・研究計画を組み立てることができる。						
授業計画	1:オリエンテーション 序論 2-4:グローバル・ヘルス・アジェンダ(1)(2)(3) 5:ワークショップ：グローバル・ヘルス・アジェンダ 6-8:災害と健康(1)(2)(3) 9:ワークショップ：災害と健康 10-12:災害看護活動の実際(1)(2)(3) 13:ワークショップ：災害看護活動 14:災害看護研究 15:まとめ						
成績評価 (基準と方法)	授業へのコミットメントとレポートにて総合的に評価する						
教科書	資料を配布する						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:別途、事前に説明します。						
オフィスアワー	いつでもメールで対応する						
備考							

科目名	災害・国際看護学Ⅱ		英訳科目名	Theories and Research on Disaster and International Nursing II		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230032	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点			資格・区分等			
担当教員	2195010	木下 真里	所属	看護学科		
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。					
授業教員						
授業の概要	災害・国際看護学Ⅰの後継科目として、災世界のさまざまな地域・環境で生活する人々を取り上げ、取りまく環境への健康適応状況を科学的に評価・分析し、最適な看護介入の方法を探索する能力を修得する。Problem Based Learning (PBL)や Logical Framework Approach など、国際保健や開発援助の分野で広く用いられる評価・学習手法を用いて、最新の関連研究・実践の動向の分析を試みる。また、看護学教育および災害・国際看護学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、災害・国際看護学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。					
達成目標 (達成水準)	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバル社会と地球環境がもたらす健康課題・看護ニーズを説明できる。 2. 国際社会の中で人々に対するケアを考える際の理論や概念を分析することができる。 3. 健康危機解決のための提案ができる。 4. 看護学教育、災害・国際看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 5. 災害・国際看護学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。 					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:社会構造の変化に伴う生活様式・健康課題の多様化 2:健康にかかるグローバル・アジェンダ 3:社会構造と健康行動モデルの変遷 (1) 4:社会構造と健康行動モデルの変遷 (2) 5:日本におけるグローバルな健康課題 (1) 6:日本におけるグローバルな健康課題 (2) 7:今日の共生社会における健康課題 (1) 8:今日の共生社会における健康課題 (2) 9:セルフマネジメントと文化 10:Problem Based Learning を用いた分析・学習(1) 11:Problem Based Learning を用いた分析・学習(2) 12:Logical Framework Approach を用いた計画・立案 13:Logical Framework Approach を用いたモニタリング・評価 14:グローバルな人材の育成 15:まとめ 					
成績評価 (基準と方法)	出席状況とレポートにて総合的に評価する					
教科書	資料を配布する					
授業外学習 課題 (予習・復習)	1-15:別途、事前に説明します。					
オフィスアワー	appointment by email					
備考						

科目名	看護病態生理学 I		英訳科目名	Pathophysiology in Nursing I		
科目区分			単位数	2	必選区分	
時間割コード	63230033	授業種別	履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺	
履修における 注意点	がん看護学領域開講科目 図書への準備は不要！ 木曜日の1時限に開講。		資格・区分等	がん看護専門看護師必修科目		
担当教員	2155310	池田 光徳	所属	看護学科		
ディプロマ・ポ リシーとの関連 性	DP1,4,5 を修得するために重要な科目					
授業教員	池田光徳					
授業の概要	がんの病態生理学について、基礎から臨床までの広範な知見を最新の情報をもとに解説する。					
達成目標 (達成水準)	がん専門看護師として臨床の場で働くために必要な、遺伝子の病態である「がん」の生物学に関する基本的な知識の習得を達成目標とする。 本コースで学んだ知識をがん看護実践に応用できることを評価の基準とする。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1:細胞および個体の生物学と遺伝学. 細胞生物学、分子生物学、遺伝学、遺伝子、転写、遺伝子クロニングなどについて理解する。(池田光徳) 2:がんの本性. 腫瘍と正常との違い、がんの発生、多段階発がん、がんの促進因子などについて理解する。(池田光徳) 3:腫瘍ウイルス. ウイルス発がんの研究史、形質転換のしくみ、レトロウイルス、原がん遺伝子などについて理解する。(池田光徳) 4:細胞性がん遺伝子. トランスフェクション、非ウイルス性がん遺伝子、レトロウイルス関連がん遺伝子、がん遺伝子とタンパク発現などについて理解する。(池田光徳) 5:増殖因子、増殖因子受容体とがん. 多細胞生物の増殖制御、チロシンキナーゼ、変異増殖因子受容体、インテグリン受容体、Gタンパクなどについて理解する。(池田光徳) 6:がん抑制遺伝子. がん抑制遺伝子の研究史、がん抑制遺伝子の意義、既知のがん抑制遺伝子、DNA のメチル化、NF1 タンパク、Apc、pVHL などについて理解する。(池田光徳) 7:永遠の生命:細胞の不死化と腫瘍形成. がん細胞における不死化の意義、染色体テロメア、テロメラーゼなどについて理解する。(池田光徳) 8:ゲノムの完全性の維持とがんの発達. 細胞ゲノム、薬物ポンプ、DNA 複製におけるエラー、DNA 修復酵素、ヌクレオチド除去修復などについて理解する。(池田光徳) 9:浸潤と転移. 浸潤・転移連鎖、E-カドヘリン、上皮間葉移行 (EMT)、EMT と胚発生などについて理解する。(池田光徳) 10:がんの合理的な治療. 腫瘍免疫と免疫療法、自然免疫と獲得免疫、免疫寛容、制御性 T リンパ球、新しいがんの薬物療法、EGF 受容体拮抗薬、遺伝子療法などについて最新情報を理解する。(池田光徳) 11:肺がんの病態生理. 肺がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 12:胃がんの病態生理. 胃がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 13:子宮がんの病態生理. 子宮がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 14:大腸がんの病態生理. 大腸がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 15:乳がんの病態生理. 乳がんの病態生理について理解する。(池田光徳) 					
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあがた複数の観点から、講義中の質疑の状態を評価する (100%)。					
教科書	ベコリーノがんの分子生物学-メカニズム・分子標的・治療-(メディカルサイエンスインターナショナル)、デヴィータがんの分子生物学 (メディカルサイエンスインターナショナル)、ワインバーグがんの生物学 (南江堂)。 ベコリーノがんの分子生物学およびワインバーグがんの生物学は、講義期間に限り貸与する。					
授業外学習 課題 (予習・復習)	<ol style="list-style-type: none"> 1:講義時に配布した資料を復習する。 2:講義時に配布した資料を復習する。 3:講義時に配布した資料を復習する。 4:講義時に配布した資料を復習する。 5:講義時に配布した資料を復習する。 6:講義時に配布した資料を復習する。 7:講義時に配布した資料を復習する。 8:講義時に配布した資料を復習する。 9:講義時に配布した資料を復習する。 10:講義時に配布した資料を復習する。 11:講義時に配布した資料を復習する。 12:講義時に配布した資料を復習する。 13:講義時に配布した資料を復習する。 14:講義時に配布した資料を復習する。 15:講義時に配布した資料を復習する。 					
オフィスアワー	C104 へいつでも来室可能。					
備考	講義開始時に資料一式を配布する。 なお、教科書は、「ワインバーグがんの生物学」、「デヴィータがんの分子生物学」および「ベコリーノがんの分子生物学-メカニズム・分子標的・治療-」を使用する (事前購入は不要)。					

科目名	看護病態生理学Ⅱ		英訳科目名	Pathophysiology in Nursing II			
科目区分			単位数	2	必選区分		
時間割コード	63230034	授業種別		履修年次		開講期間	通年
授業方式			池		永国寺		
履修における 注意点	生理学的手法を使って体表を対象とした実験研究を行う学生が対象。		資格・区分等	本学看護学研究科博士後期課程の履修者に限る。 看護病態生理学Ⅰを履修済みの者に限る。			
担当教員	2155310	池田 光徳	所属	看護学科			
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP6 を修得するために特に重要な科目。DP2,4 を修得するために重要な科目。						
授業教員	池田光徳						
授業の概要	看護病態生理学Ⅰの応用科目である。現在開発されている種々の皮膚生理学的計測方法を紹介し、学生の注目する患者の病態生理に応用が可能かを考える。適切な生理学的計測方法がなければ、新規の生理学的計測法を開発する。看護に必要な形態学的な観察方法についても検討する。看護学教育および看護病態生理学領域の教育の動向と課題を分析・考察し、看護病態生理学をさらに発展させていくための新たな教育内容や方法を考案する。						
達成目標 (達成水準)	1.現在開発されている生理学的計測方法が説明できる。 2.看護に必要な生理学的な観察方法を説明できる。 3.看護学教育、看護病態生理学看護学領域における教育の動向と課題を多角的に分析・考察できる。 4.看護病態生理学領域の教育の質向上をさせる方策を考案できる。						
授業計画	1:皮膚の生理学(池田光徳) 2:皮膚の病態生理学(池田光徳) 3:浮腫の計測法(池田光徳) 4:ツルゴールの計測法(池田光徳) 5:皮膚弾性の計測法(池田光徳) 6:皮脂分泌の計測法(池田光徳) 7:発汗の計測法(池田光徳) 8:角質水分量の計測法(池田光徳) 9:経表皮水分喪失の計測法(池田光徳) 10:経皮吸収の計測法(池田光徳) 11:看護病態生理学における教育の動向と課題の多角的分析・考察①(池田光徳) 12:看護病態生理学における教育の動向と課題の多角的分析・考察②(池田光徳) 13:関心領域の看護学教育内容・方法の検討①(池田光徳) 14:関心領域の看護学教育内容・方法の検討②(池田光徳) 15:関心領域の看護学教育内容・方法の開発(池田光徳)						
成績評価 (基準と方法)	試験は実施しないが、看護学研究科 CP にあげた複数の観点から、講義中の質疑の状態の評価する (100%)。						
教科書	文献の紹介、必要資料の配布は適宜行う。						
授業外学習 課題 (予習・復習)	1:配布資料を復習する。 2:配布資料を復習する。 3:配布資料を復習する。 4:配布資料を復習する。 5:配布資料を復習する。 6:配布資料を復習する。 7:配布資料を復習する。 8:配布資料を復習する。 9:配布資料を復習する。 10:配布資料を復習する。 11:配布資料を復習する。 12:配布資料を復習する。 13:配布資料を復習する。 14:配布資料を復習する。 15:配布資料を復習する。						
オフィスアワー	C104 へいつでも来室可能。						
備考							